千葉ろう者劇団九十九（つくも）

昭和58年1月に設立。
演出、脚本、脚色、舞台美術など、ろう者自身による手づくりの芝居創造を得意とし、日舞手話劇、民話劇、手話落語、ミュージカル劇などその演目は多彩にわたる。国内では、国民文化祭に千葉県代表として二回出演。海外は、世界ろう者演劇祭典（ヘルシンキ）に日本代表として参加。
モスクワでの海外公演は、単独劇団としては日本初と言われている。
九十九は、「百まであとひとつ・・・」とあくなき探求心で取り組んでいます。

活動歴・出演歴

1987年	第10回世界ろう者演劇祭典（フィンランド/ヘルシンキ） 日ソろうあ交流会&演劇の競演（ソビエト連邦/モスクワ）
1991年	第6回国民文化祭（千葉県船橋市） 第11回世界ろう者演劇祭典（東京都）
1992年	国際障害者年10年記念芸術祭（東京都）
1998年	第13回国民文化祭（大分県大分市）
1993年	ちば文化祭'93芸術フェスティバル創立10周年記念公演
1996年	ちば文化祭'96芸術フェスティバル
2000年	第31回千葉県演劇祭（ちば文化祭2000芸術フェスティバル）
2003年	創立20周年記念公演
2007年	千葉・県民芸術祭
2008年	千葉・県民芸術祭
2013年	第44回千葉県演劇祭・創立30周年記念公演

手話劇演目

（ある駅での出来事）
いつでも どこでも だれにでも・・・

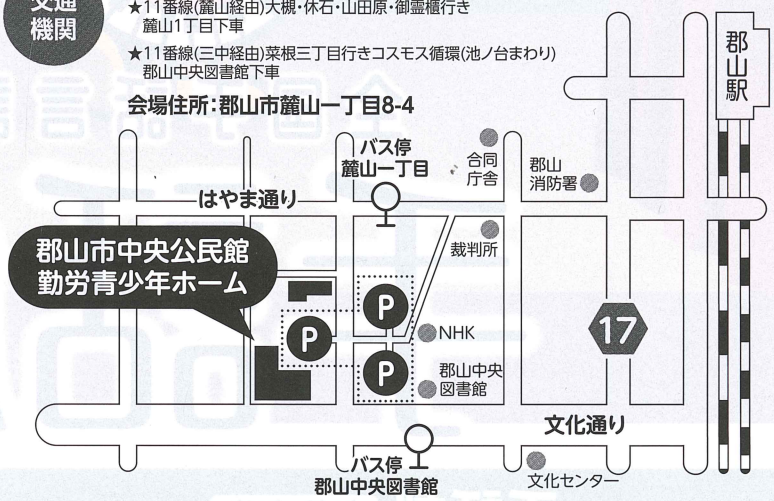
あらすじ

ある大きな駅での出来事。
改札口でろう者が突然倒れ、意識不明となった。
居合わせたろう者の友人たちが駅員に筆談で必死に伝えるも、駅員たちの対応が遅い。ろう者たちは必死に人命救助を訴え続ける。
目の前に「AED」という救命措置装置があるのに誰も触ろうとしない。その日は土曜日の夜であり、ろう者は手話通訳を呼ぶ方法が分からずパニック状態に陥る。
結局、倒れたろう者は亡くなってしまった。
ろう者の友人たちは駅員の対応に納得がいかないため、千葉聴覚障害者センターの相談員に相談。相談員が調査に乗り出したところ、いくつかの課題が浮かび上がった。この調査報告を聞いた関係者たちは愕然とする。
ところが、ここでタイムスリップが起き、意外な展開となってしまう。いったい何が起きたのだろうか…。
（実際に起きた通訳等のトラブルの話の一部をベースにしたストーリーであるが、個人名や場所等はフィクションと設定している）

交通機関

郡山駅よりバス（13分）
★11番線（麓山経由）大槻・休石・山田原・御霊櫃行き
麓山1丁目下車
★11番線（三中経由）菜根三丁目行きコスモス循環（池ノ台まわり）
郡山中央図書館下車

会場住所：郡山市麓山一丁目8-4



駐車場には限りがございますので、公共の交通機関をご利用ください。

お申し込み方法

電話または、下記にてFAX・e-mailで10/12(金)までにお申し込みください。

TEL (024)924-2381　FAX (024)933-2290
e-mail shougaifukushi@city.koriyama.lg.jp

詳細はこちらのQRコードからご覧ください。

名　前	住　所	電話または FAX メールアドレス	午前の部	午後の部
			ご希望の時間帯に○を付けてください。	
〔記入例〕 郡山一郎	郡山市朝日一丁目23-7	FAX 024-933-2290 shougaifukushi@city.koriyama.lg.jp	○	

託児希望の方

事前予約制の先着順となります。（無料）
【託児時間】午前の部／10:15～12:45　午後の部／13:45～15:55

ご希望の方は○を付けてください。		お子様の氏名・年齢・性別	お子様の氏名・年齢・性別
		才（男・女）	才（男・女）